



# CSRLレポート 2016

Corporate Social Responsibility REPORT

# Contents

■ 会社概要	02
■ トップメッセージ	03
■ 社会の中のニチアスグループ	05
■ 特集01 ニチアス120年のあゆみ	07
■ 特集02 子ども参観日レポート	11
■ CSR活動への取り組み	12
■ コーポレートガバナンス	13
■ お客さまとのつながり	15
■ 株主・お取引先とのつながり	16
■ 社会とのつながり	17
■ 従業員とのつながり	19
■ 環境への取り組み	20
■ 環境マネジメント	21
■ 環境パフォーマンス	23
■ 環境TOPICS	25

## 編集方針

ニチアスグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーのみなさまのご理解を深めることを目的に、CSR (Corporate Social Responsibility) レポートを発行しています。

なお、本レポートの作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」および「環境報告ガイドライン(2012年版)」(環境省)を参考にしています。

## 報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

- ・「従業員とのつながり」(P19)はニチアス株式会社単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P20～26)は、プラント向け工事・販売事業および建材事業の工事部門に関するデータを除いております。
- ・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場<sup>注1</sup>、国内連結製造子会社<sup>注2</sup>を対象としています。

注1: 鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場  
注2: ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、竜田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社

## 報告期間

2015年4月1日～2016年3月31日

## 次回発行予定

2017年7月

## 将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

※®が付された名称はニチアス(株)の登録商標です。

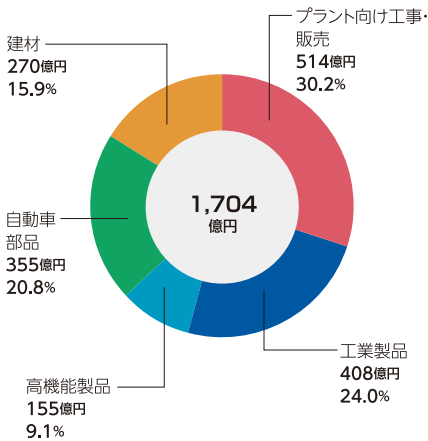
※TMが付された名称はニチアス(株)の商標です。

# 会社概要

「断つ・保つ」の技術で地球の明るい未来に貢献します。

## 事業分野

事業分野別売上高比率(2016年3月期)



### 建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



不燃内装材

住宅用断熱材

### 自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品を提供しています。



シリンダーヘッドガスケット

防音カバー

### プラント向け工事・販売事業

極低温から超高温にいたる領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



シール材

保冷工事

### 工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材

シール材

### 高機能製品事業

技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野のなかで、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスに関わる先進の部品や部材を提供しています。



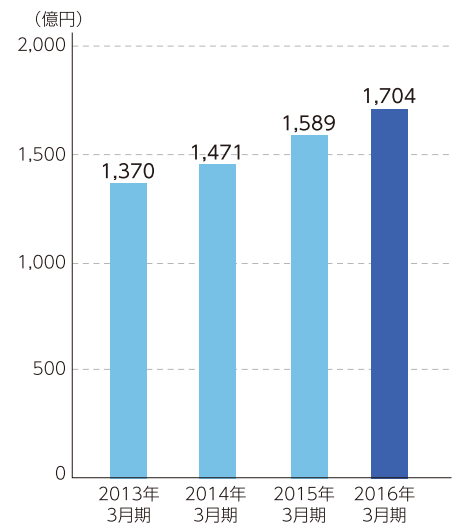
ふっ素樹脂製チューブ

配管加熱・保温ヒーター

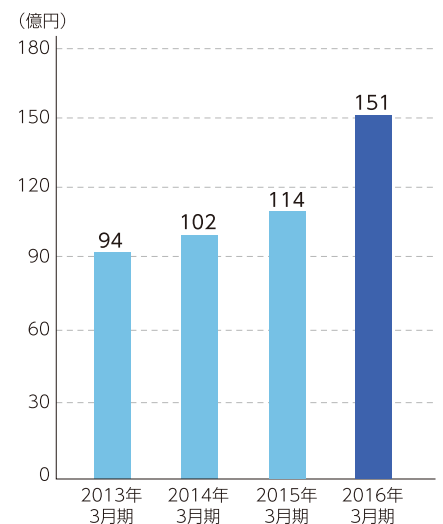
## 会社概要 (2016年3月31日現在)

**商号** ニチアス株式会社  
NICHIAS Corporation  
**設立** 1896年(明治29年)4月9日  
**資本金** 114億円  
**代表者** 代表取締役社長 武井 俊之  
**従業員** 連結:5,155人/単独:1,553人  
**本社** 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

## 売上高推移(連結)



## 営業利益推移(連結)





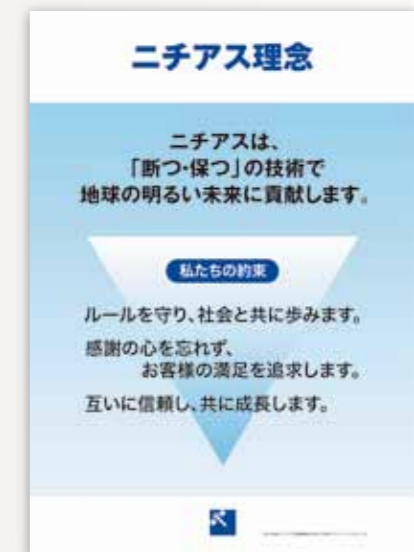
代表取締役社長

武井俊之

ステークホルダーのみなさまの  
期待と信頼にお応えし、  
企業価値の向上を目指します。

ニチアスは明治29年(1896年)、わが国における保温・断熱分野のパイオニアとしてスタートし、おかげさまで本年創業120年を迎えました。この120年という長い歴史のなかで当社独自の技術である「断つ・保つ」の技術を深化させ、わが国の産業の発展に貢献してまいりました。その結果、現在では5つの事業を生み出し、日本だけではなく世界で活躍する企業に成長しております。

当社グループの企業理念である「ニチアス理念」では、「『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献します」と謳っています。これは、当社グループが極低温から超高温という広い温度領域で、液体・気体をはじめとするさまざまな対象物に対して、漏れ・熱・音・腐食を「断つ」機能や、熱・クリーンを「保つ」機能をもった製品・サービスを提供することで、持続可能な社会の形成に貢献することを表明したものです。



私たちニチアスグループは、経営ビジョンである「お客様から信頼され、誇りを持って働ける会社」の実現のため、2016年度を初年度とする中期経営計画を策定いたしました。その施策として、事業面では①成長市場への注力、②海外事業の強化、③国内重点分野でのシェアアップを、機能面ではCSR活動の推進(社会的役割と価値の向上)を掲げ、その達成に向けまい進しております。

お客さま、株主・投資家のみなさま、社会のみなさまをはじめとするステークホルダーのみなさまの期待と信頼にお応えすることで企業価値の向上を目指してまいります。

本レポートではその成果をステークホルダーのみなさまにご報告いたします。

ぜひとも多くの方々に本レポートをご一読いただき、当社グループの事業活動へのご理解の一助になれば幸いです。

# ニチアスグループは「断つ・保つ」の技術でさまざまな産業の発展に貢献しています。



**汎用ジョイントシート**  
**クリンシル®ブラウン**  
 各種配管のフランジやバルブなどに使用されるシール材です。

**薬液移送用チューブ**  
**ナフロン®PFA-HGチューブ**  
 高純度の薬液・ガスの移送に使用されるチューブです。

**発泡断熱材**  
**フォームナート®加工品**  
 液体燃料タンクの配管に使用される発泡断熱材です。

**医療用チューブ**  
**ナフロン®マルチルーメンチューブ**  
 医療機器の部品として使用されるふっ素樹脂製のチューブです。

**原子力発電設備用保温材**  
**金属保温材**  
 原子炉の压力容器や各種機器、配管に使用される金属保温材です。

**非金属製伸縮継手**  
**NA ベロー-Q®**  
 各種配管やダクトなどの煙風道に使用される非金属製伸縮継手です。

**住宅用断熱材**  
**ホームマット®**  
 住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。

**無機繊維質不定形断熱材**  
**ルミキャスト®**  
 溶融アルミニウム合金と直接接触する、受湯容器内張り材(不定形品)です。

**巻き付け耐火被覆材**  
**マキベエ®**  
 鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。

**耐食用パッキング**  
**ナフロン®ファイバーパッキング-T**  
 各種ポンプなどの回転軸に使用されるパッキングです。

**サニタリー用ガスケット**  
**サニクリーン®ガスケット**  
 製品充填ラインなどで使用されるシール材です。

**高耐熱断熱材**  
**ロスリム®ボード**  
 高温の工業炉などで使用される断熱材です。

**保冷工事**  
 LNG基地、LNG船、配管、タンクやその他設備への保冷材の取り付け工事です。

**ガラスクロス**  
**マリントックス®**  
 船舶の熱配管などのまわりに巻き付けるラギングクロスです。

**低熱伝導率フレキシブル保温材**  
**パイロジェル™XT**  
 高温の配管、機器、タンクなどに使用される保温材です。

※「パイロジェル」は aspen aerogels, Inc. の商標です。

**うず巻形ガスケット**  
**グラシール®ボルテックス®ガスケット**  
 エンジンやボイラーなどの機器や配管で使用されるシール材です。

**超軽量防音カバー**  
**エアトーン®**  
 トランスミッションカバーなどに使用される防音カバーです。

**「断つ・保つ」の6つの技術**

シール技術	断熱技術	防音技術
耐火技術	耐食技術	クリーン技術

# 120年の実績を基盤に、「断つ・保つ」で明るい未来へ。

1896年、国内における保温・断熱分野のパイオニアとしてスタートして以来、1931年にはジョイントシートガasketの国産第1号を完成、1938年には国産初のロックウールの生産開始など、たえず時代のニーズを先取りしてきました。このように当社は創業期から一貫して「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスを幅広い産業へご提供することで成長してきました。

そして2016年、創業120周年を迎えた私たちニチアスは、これまで120年の歴史で培った「断つ・保つ」技術をさらに深化させ、産業の発展はもとより、人々の暮らしの安心・安全や地球環境の保全に貢献していきたいと考えています。

**1896** 現、大阪市福島区にて日本アスベスト社として創業(明治29年)



創業当初の大阪工場

**1923** トンボ印商標登録



当時のトンボマークと現在のコーポレートマーク

- 1924 ニチアス技術時報を創刊
- 1931 ジョイントシートガasketを発売(国産第1号)
- 1937 王寺工場を設立
- 1938 ロックウール製品の生産開始
- 1939 鶴見工場を設立

**1951** 国産初のふっ素樹脂製品の試作成形



ふっ素樹脂製品群

**1956** 総合研究所を設立(現、鶴見研究所)



当時の総合研究所(現、鶴見研究所)

- 1952 うず巻形ガasket「ボルテックスガasket」を発売
- 1952 キャスタブル炉材の国産化に成功
- 1958 耐熱1300℃の超高温用無機繊維製品「ファインレックス」の量産に成功
- 1959 羽島工場を設立

**1961** 石油コンビナートでの保温・保冷工事を初施工



石油コンビナート

**1965** 住宅用断熱材「ホームマット」を発売



当時のホームマットのカタログ

- 1962 東京証券取引所市場第1部上場
- 1964 袋井工場を設立
- 1964 社内報を創刊
- 1968 明仁皇太子殿下(現、天皇陛下)が鶴見研究所をご視察

**1971** 非金属製伸縮継手「ペローQ」を発売



ペローQ


**1979** シンガポールに拠点を設立(初の海外拠点進出)



ニチアスシンガポール社の開所式


- 1971 本社技術部に環境改善課を設置
- 1971 本社を東京都港区芝大門に移転
- 1974 結城工場を設立
- 1976 カグスベールを発売
- 1977 環境管理センターを設置
- 1977 省エネルギー展で原子力用金属保温材が優秀製品賞を受賞

**1981** ニチアスに商号変更



ニチアス 商号変更

**1985** ゴム・金属複合シール材「メタコート」の製造販売を開始



メタコートガasket製品例

**1987** ふっ素樹脂半導体関連製品の発売



ふっ素樹脂チューブ

- 1982 QCサークル活動開始
- 1983 インドネシアに拠点を設立
- 1987 事業部別組織へ再編成
- 1988 ふっ素樹脂医療用チューブの発売

**1990** マレーシアに拠点を設立



設立当初のニチアスFGS社

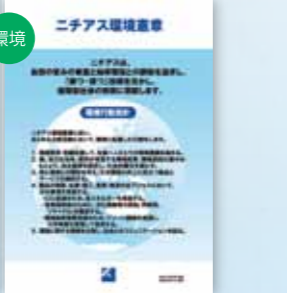
**1994** 浜松研究所を設立



浜松研究所

- 1990 タイに拠点を設立
- 1994 H-IIロケットに「セラミック断熱タイル」搭載
- 1994 中国に拠点を設立
- 1996 羽島工場、ISO9002の認証取得
- 1996 創業100周年

**2001** ニチアス環境憲章制定



ニチアス環境憲章

**2004** 「フォームナートTN」、「第7回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞 優秀賞」受賞



フォームナートTNの施工

- 2001 ベトナムに拠点を設立
- 2003 全製造工場でISO14001認証取得
- 2004 チェコに拠点を設立
- 2005 グリーン調達基準制定
- 2008 インドに拠点を設立

**2013** CSRLレポートを発行



CSRLレポート

**2015** 子ども参観日を開催



子ども参観日

**2016** 4月9日、創業120周年



創業120周年

- 2011 企業理念「ニチアス理念」制定
- 2012 メキシコに拠点を設立
- 2012 内装不燃材「エコラックス」が「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞
- 2013 本社を中央区八丁堀へ移転
- 2014 ロックウールの生産技術で「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞
- 2016 イギリスに拠点を設立
- 2016 高強度低熱伝導率断熱材「ロスリムボードGH」が「省エネ大賞」を受賞

1896

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

●世の中の動き

- 1896年 第1回オリンピック開催
- 1923年 関東大震災
- 1929年 世界恐慌
- 1945年 第二次世界大戦終戦
- 1947年 ベビーブーム(～1949年)

- 1954年 高度経済成長期(～1973年)
- 1956年 水俣病発生

- 1964年 東京オリンピック開催
- 1964年 東海道新幹線開通
- 1968年 大気汚染防止法制定
- 1969年 東名高速道路全線開通

- 1970年 日本万国博覧会開催
- 1972年 札幌オリンピック開催
- 1973年 第一次オイルショック
- 1979年 第二次オイルショック

- 1982年 東北新幹線開業
- 1985年 プラザ合意(急激な円高に)
- 1986年 バブル景気(～1991年)
- 1989年 昭和天皇崩御。元号が平成に

- 1995年 阪神・淡路大震災
- 1997年 京都議定書採択
- 1998年 長野オリンピック開催

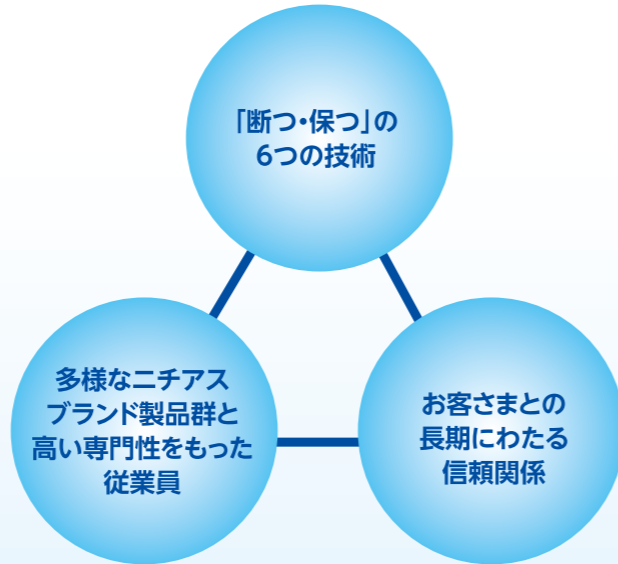
- 2005年 愛・地球博開催
- 2008年 リーマン・ショック

- 2011年 東日本大震災
- 2016年 熊本地震

# 120年の歴史のなかで ニチアスが培ってきたもの。

私たちニチアスが創業以来ずっと大切にしてきたものづくりやサービスの考え方、それは当社の企業理念で謳っている『ニチアスは、「断つ・保つ」の技術で地球の明るい未来に貢献します』に集約されています。

私たちが提供する「断つ・保つ」の技術は、シール、断熱、防音、耐火、耐食、クリーンといった6つの要素となる技術から構成されています。これらの要素技術は、省エネルギーやCO<sub>2</sub>の排出量削減を支える断熱技術、さらにはエネルギーの有効活用に役立つ耐火技術をはじめ、多様な産業や人々の暮らしの中に息づき、地球環境の保全にしっかり貢献しています。こうした「断つ・保つ」の技術に基づいた製品・サービスは長い年月のなかで改良を重ね、そしてお客さまに支えられ、発展してきました。私たちは、創業以来受け継いできた考え方を大切に、今後も製品開発・製造やサービスに活かしていきます。



## 多様なニチアスブランド製品群と高い専門性をもった従業員

現在、「断つ・保つ」という独自の技術に裏付けられた当社の製品群は3,000点を超え、幅広い産業に貢献し、ニチアスブランドとして親しまれています。なかには、長期的にお客さまにご愛用いただいている製品もあります。例えば「ジョイントシート」は1931年に国産第1号の製品化に成功し、以来改良を重ね、現在も産業界で活躍しています。

また、多様な独自製品を生み出す開発力は、従業員一人ひとりがもつ高い専門性によって支えられています。それら専門性の結果から生み出される現場力と、長く愛される独自の製品群が、私たちの大きな誇りであり、当社の特色の一つとなっています。私たちニチアスは、今後も「断つ・保つ」の技術を研鑽し、他社にまねのできない現場力と製品群を通じて競争力を持続的に強化し、社会から必要とされる企業をめざしていきます。

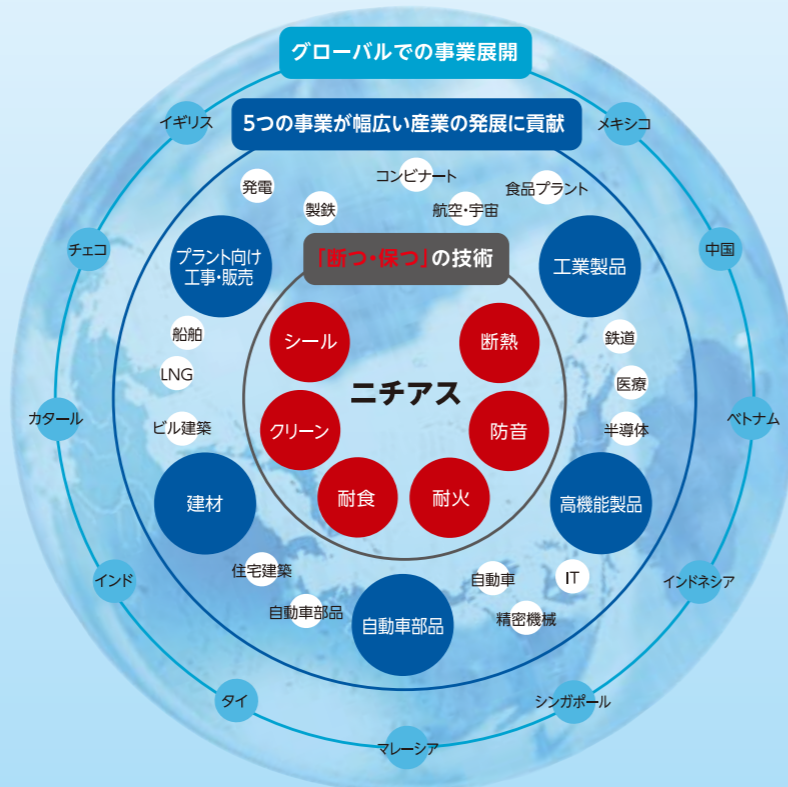


当社グループの改善事例発表会でのひとこま  
高い専門性をもった従業員が集まり、大きな力を生み出す

## 「断つ・保つ」の6つの技術

シール、断熱、防音、耐火、耐食、クリーンの6つの要素からなる「断つ・保つ」の技術は、創業以来120年という長い時間をかけて深化し、この技術を基盤とした製品・サービスを提供してきました。産業の近代化、戦後の復興、高度経済成長、グローバル化といった我が国の歴史のなかで確かな貢献を果たし、あらゆる産業の操業・安全・省エネルギーに欠かせない技術です。

「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスは、『プラント向け工事・販売』『工業製品』『高機能製品』『自動車部品』『建材』の5つの事業から多様な産業に提供し、その発展に貢献しています。また、国内はもちろんのこと、東南アジアを中心に海外11カ国にある拠点網によってグローバルに事業を展開しています。



## お客さまとの長期にわたる信頼関係

私たちニチアスのお客さまは、電力・ガス、化学・石油化学、自動車、半導体、建築、航空宇宙、食品など多様な分野にわたり約3,000社にのぼっています。

こうした多分野に広がる多くのお客さま企業とのお付き合いにおいて私たちが大切にしているマインドは、『ルールを守り、社会と共に歩む』『感謝の心を忘れず、お客さまの満足を目指す』『お互いに信頼し、共に成長する』にあります。これは、『私たちの約束』として企業理念(ニチアス理念)に宣言した考え方であり、お客さまとの長期にわたる信頼関係を築いてきた精神の礎であると確信しています。

私たちニチアスは、従業員一人ひとりが今後もこの考え方を大切に、製品開発・生産・サービスを、明るい未来のために推進していきたいと考えています。

### お客さまの声



### 電力の安定供給と低炭素社会の実現のカギはニチアスの製品群

人々の暮らしと産業を支える電気。およそ半世紀前、火力発電が電力の主役となって以来、御社の製品群と昼夜をいとわぬ迅速な施工は発電所の運営に多大な貢献を果たしてきました。火力発電所の安定供給と熱効率の維持・向上は「損失」との戦いであり、高温・高圧の流体を扱うあらゆる機器において、御社のシール材が水・燃料・ガス等の流体損失を極小化し、保温・断熱材が大事な熱損失を抑制しています。低炭素社会の実現が求められる現在、火力発電の更なる熱効率向上が必須であり、御社の製品群のより一層の高性能化が重要なアイテムのひとつになると考えています。

中部電力株式会社 執行役員 発電カンパニー 火力発電事業部長 栗山 章 様

# 会社と家族のつながりを深める 「子ども参観日」を開催。

ニチアスは会社と家族のつながりを大切に、従業員の子どもに親の仕事への理解を深め、家庭内でのコミュニケーションを向上させる活動を推進しています。その一環として、従業員の子どもたちに父母の職場見学や、仕事を体験してもらう「子ども参観日」を実施しました。この活動を通じ、子どもの職業観を育み、家庭教育の充実や子育てを支援しています。

## 2015年7月29日／ニチアス本社で開催

当社初の取り組みとして子ども参観日をお本社ビルで開催。22名の従業員の子どもたちが集まり、仕事内容の学習や、断熱材を使った実験、名刺交換や電話対応を通じたビジネスマナーの体験、お父さんお母さんの職場訪問、役員室の見学などを実施しました。



ビジネススクール。社会人のごあいさつ!? 初めての名刺交換!



電話を使って職場にいるお父さんお母さんにアポイントを取りました。



断熱材を使った実験。断熱効果の確認に使用したサーモグラフィに興味津々!



お父さんお母さんの職場を訪問。



断熱がエコってなあに? 少し勉強しました。

## 2015年7月30日／浜松研究所で開催

本社での開催翌日は浜松研究所の従業員の子どもを対象に子ども参観日を開催しました。14名の従業員の子どもたちが集まり、ニチアスの仕事内容についての学習、断熱材を使った実験や紙すきではがきをつくる体験、研究所の各種設備の見学などを実施しました。



お友達と名刺交換の練習。初めは緊張していたけれど、だいぶほぐれてきました。



お父さん、お母さんの働くニチアスってどんな会社?クイズ形式に子どもたちも大興奮!!



研究所探検の様子①  
お札の中に小さな文字が!



研究所探検の様子②  
いつもと音の聞こえ方が違うぞ?!



お兄さん、お姉さんが優しく、可笑しく教えてくれたお陰で、楽しく実験ができました。

### 【参加した子どもの感想】

- 生活するのになくてはならないものをつくって売っていて、それが環境を守ることもつながるのでとても重要な仕事ですごくいいと思いました。
- 家にいる時とは正反対の姿を見ることができてうれしかったです。とても大きな部署だという印象でした。

### 【保護者の感想】

- 事前準備連絡・当日のフォロー体制・事後に資料提供まで、とても手厚く充実していて、親子ともに普段味わうことができない貴重な時間を過ごせました。
- 子は親の背中を見て育つ、と申しますが、親が会社員の場合、子どもが親の職場や仕事ぶりを見る機会はなかなかありません。今回は貴重な機会を与えていただいたと思います。

VOICE



# CSR活動への取り組み

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員とのつながりのもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切にし、さらにより良い関係の構築をめざしたCSR活動に取り組んでいます。



# コーポレートガバナンス

ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。

## コーポレートガバナンス

企業価値の向上は、公正な企業活動による社会的使命を果たし、ステークホルダーの皆さまの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると当社は位置付けています。

当社の取締役会は、経営の透明性、公正性を高め、かつ経営上の意思決定を迅速に行うため、当社事業に精通した8名の取締役と、独立した立場から自由に提言できる2名の社外取締役に構成しています<sup>注1</sup>。毎月定例日に1回、必要場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定を行っています。2015年度は合計14回開催しました。このほか、取締役会を効率化するための審議機関として、取締役、常勤監査役、各本部を担当する執行役員により構成される経営会議を原則毎週開催し

ています。稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議することで、機動的な意思決定が可能となる体制を構築しています。

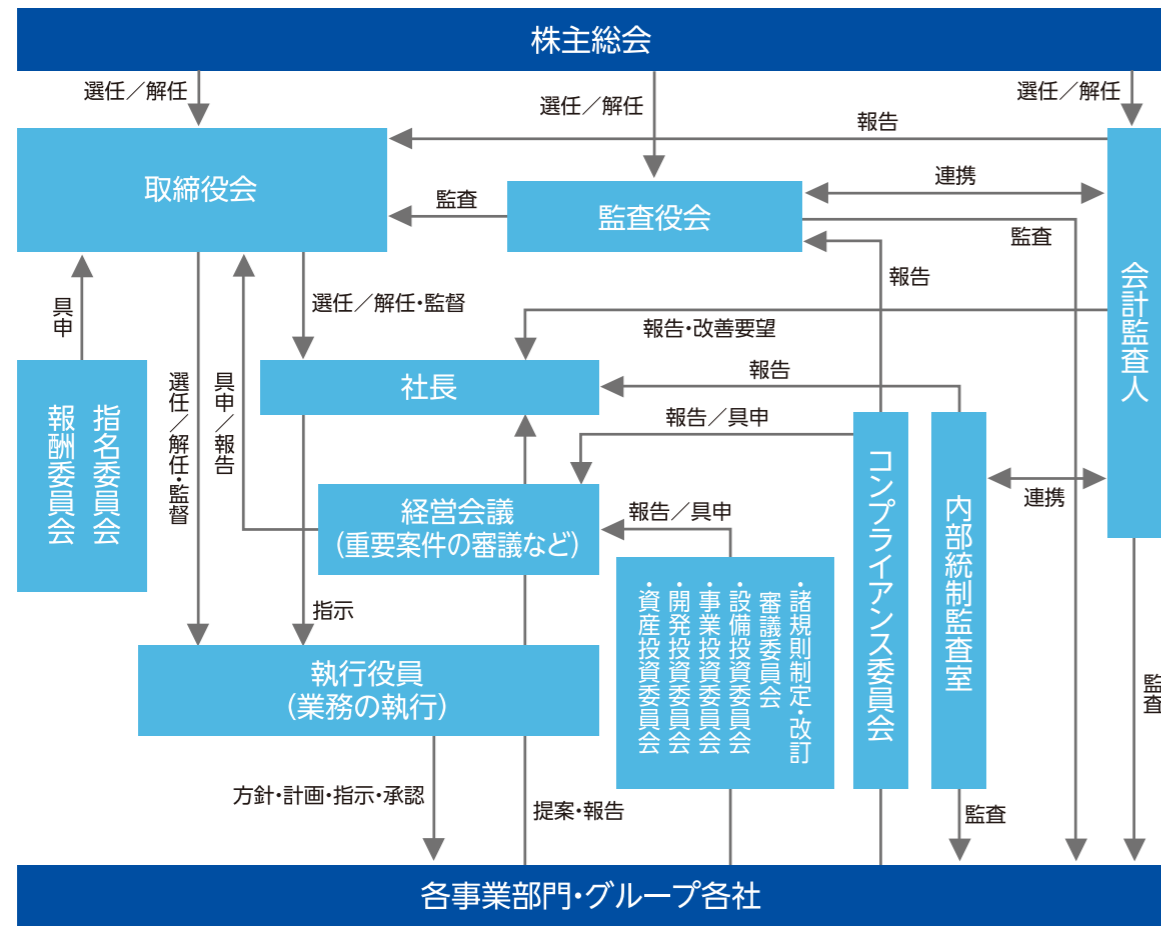
また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野をもった社外監査役と常勤監査役によって構成されており、経営に対する積極的な意見表明を行っています。

また、内部統制については内部統制監査室が当社グループの内部監査を計画的に実施しています。

当社はこれらの体制を構築することにより、経営の透明性、公正性、効率性を高めています。

注1:取締役会の構成については、2016年6月29日現在の情報を記載しています。

### ● コーポレートガバナンス体制図

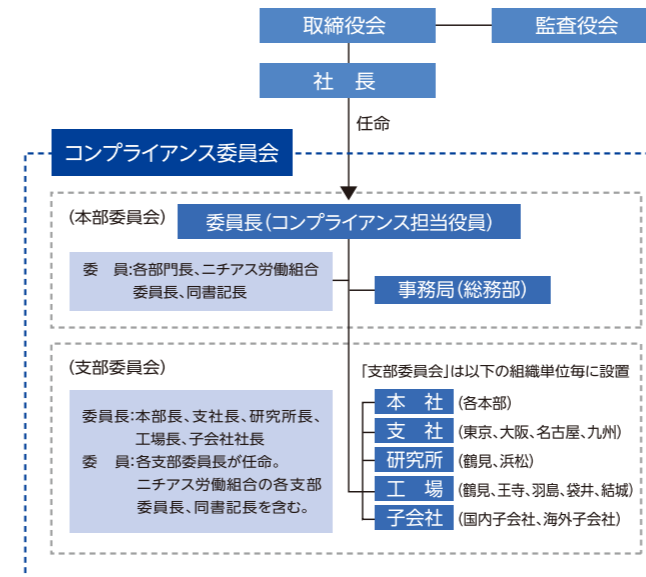


## コンプライアンス活動

当社は、企業経営を行ううえで、また社会の中で活動する一員として、多くのステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築できるよう、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいます。

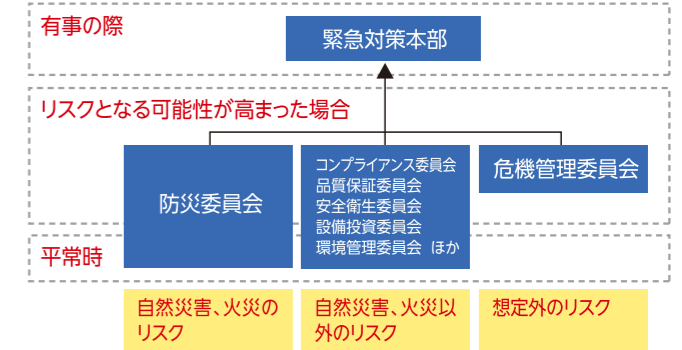
活動の基盤は、毎月開催されるコンプライアンス本部委員会と3カ月に一度開催される事業場ごとのコンプライアンス支部委員会にあり、コンプライアンス違反につながりかねない行為の根絶を図っています。また、定点観測という観点からの定期的な(おおむね3年に一度)従業員全員を対象としたアンケートの実施、階層別研修などを通じた教育や、通報窓口としてのコンプライアンスカウンターの啓発ポスターを掲示するなど、従業員の意識向上と、通報者が情報提供をしやすい開かれた体制づくりを積極的に推進しています。

加えて2016年度からは、より読みやすく、より身近に、という観点から「コンプライアンス綱領」の改編(第7版)を行い、また従来の通報窓口に加えて、第三者機関による「総合通報窓口」を新たに開設するなど、より透明性の高い体制の中で、コンプライアンス経営を実践できるよう努めています。



## リスクマネジメント体制

「断つ・保つ」の技術を基盤とした製品・サービスを安定供給することを社会的使命とし、リスクマネジメントの実践を通じて事業の存続・安定的発展を確保しています。経営上の重大リスクに直面した際には、緊急対策本部を設置し、全社一丸で即応できる体制を整えています。



## BCP(事業継続計画)への取り組み

当社グループは幅広い産業にわたる製品・サービスを提供しています。したがって製品供給が滞ることなく、継続的に事業活動を行っていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。

災害発生時に製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案し、対策が必要な製品の優先順位をつけ、対策を確実に実施することで、製品供給の確保に努めています。また、災害の発生時、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。



2013年、耐震性、非常時の電源確保への対策が強化されたビルへ本社を移転

# お客さまとのつながり

ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・サービスの提供を推進しています。



## 安全・安心な製品の提供

### ● お客さまに信頼される品質への取り組み

お客さまに安心して使っていただける製品を継続的に提供するために、リスク管理を強化し、不具合を未然に防ぐために、「開発」「技術」「製造」「品証」「環境」部門が一体となって、品質面、安全性、環境面などあらゆる視点で、工程での品質の作り込み条件、作業手順、管理の妥当性を厳しく審査しています。

### ● 生産活動向上に向けた人材の育成

お客さまの立場に立って考え、製品の品質維持・向上を図ることができる人材を育成するために「品質アカデミー」など、さまざまな形の教育活動に取り組んでいます。なかでも、NKK(ニチアス改善活動)では、生産現場だけでなく、営業・管理部門も含めた世界中のグループメンバーが

「現場力の向上」に取り組んでいます。活動を通じて、メンバーの交流や成長を支援しています。

### ● マネジメントシステム体制

当社では120年の歴史のなかで培ってきた固有の品質マネジメントシステムを運用しています。さらに、1996年には羽島工場がISO9002(当時)を取得したのを皮切りに、各製造事業場でISO9001、14001認証の取得を推進し、現在では国内外の製造工場や製造子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。

また、製品の公的認証取得においては、専門の審査部門を置き、マネジメント体制の強化を行っています。

## お客さまのニーズに合わせた製品・サービスの提供

### ● ガasketNAVI™

プラント配管継ぎ手などのシール材として使用されるガスケットにはさまざまな種類があり、その選定と取り付けには専門的な知識が要求されます。アプリケーションソフト「ガスケットNAVI」は、これらに必要な情報をパソコンやスマートフォンで簡単に検索・算出することができます。お客さまのご要望を反映させ、検索機能を強化するなどの見直しを行い、2016年5月に全面リニューアルしました。



PC用画面



スマートフォン用画面

「ガスケットNAVI」/  
<https://www.nichias.co.jp/gasketnavi/>



### ● GASKET工房™

石油精製・化学プラント工場などの定期修理現場では、当社のガスケット加工品が緊急で必要になることがあります。このようなお客さまからの緊急のご要望にお応えするため、お客さまの現場に常駐しその場で加工が可能な移動式設備「GASKET工房」を2014年5月から稼働しました。

2015年度は千葉県市原地区、三重県四日市地区で定期修理期間中のお客さま構内に常駐し、なかには3,000枚以上のガスケットを現地対応で提供した現場もありました。

また、北は北海道から南は九州まで全国各地のプラント工場を回り、ガスケット現場加工のデモンストレーションだけでなく、ガスケット以外の製品紹介を行うなどのPR活動を実施しました。さらにはお客さまの研修現場に出動するなど、皆さまからご好評をいただいています。



お客さま構内でのガスケット加工デモンストレーション



# 株主・お取引先とのつながり

ニチアスグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営を行うとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引を行っています。

## 株主・投資家とのコミュニケーション

### ● IR活動

当社は、積極的なIR活動によって、情報開示の充実と迅速化を進める一方、投資家と活発なコミュニケーションを図っています。例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催しているほか、日常的な面談やミーティングも行っています。2015年度は延べ132件の個別ミーティングを行いました。また、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めています。

### ● アナリスト向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決算説明会を開催しています。決算説明会では財務情報、事業概要、経営戦略を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組んでいます。2015年度は、2回の説明会で計108人に出席いただきました。皆さまからいただいたご意見は、社内で共有し業績向上に役立てています。



決算説明会の様子

## お取引先とのコミュニケーション

### ● 公正な評価による取引先の選定

当社の事業活動は、多くのお取引先に支えられています。そこで当社では、お取引先の方々に公平な競争機会を提供しています。各お取引先について、製品・サービスの品質や供給能力、財務状況、環境への配慮などを公平に評価し、取引先の選定を行っています。

### ● グリーン調達への取り組み、調達基準の制定・見直し

当社グループは、「環境に配慮したものづくり」をキーワードに、研究・開発から原材料調達、製造、流通、消費、廃棄などの各段階における環境負荷が小さい環境配慮型製品の開発に取り組んでいます。その一環として2005年4月に「グリーン調達ガイドライン」を制定しました。ガイドラインでは、当社グループで使用を禁止している環境負荷物質、および使用状況の把握が必要な環境負荷物質を選定し、新規に採用する原材料の事前チェックを行うことを定めています。環境負荷物質は規制の強化とともに年々追加されていますので、定期的に見直しを行っています。現在も欧州REACH規制やGADSLの対象物質増加・変更により、ガイドライン改訂を実施しています。



グリーン調達ガイドライン

### ● 独占禁止法・下請法順守への取り組み

当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員や新任管理職を対象とした研修などをプログラムに盛り込んでいます。また、各支社および工場ならびに子会社の担当者に対し、下請法に関する実務面の説明会を適宜実施しています。さらに、2015年度は役員および従業員を対象に、国内の独占禁止法のみならず海外の競争法に関するeラーニングによる研修を実施しました。これら研修・説明会を通じ、当社グループは法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法・下請法の従業員研修

# 社会とのつながり

ニチアスグループは、支援活動や助成を通じた社会への貢献を意欲的に推進しています。また、事業場がある地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。

## 社会貢献活動

### ● さまざまな学術研究に対する助成

当社は、日本の研究・開発機関に貢献すべく、大学などへ学術研究に対する助成を行っています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に、幅広い分野にわたっています。また、海外の大学にも支援を広げています。2015年度は、総額約1,250万円の助成をしています。今後とも、有望と思われる分野、機関に助成を続けたいと考えています。

### ● マレーシアにおける住宅断熱研究に関する 広島大学大学院-マレーシア工科大学への助成

当社は2012年度から、広島大学大学院国際協力研究科の久保田准教授とマレーシア工科大学の間で進められている「マレーシアの都市住宅の省エネ化プロジェクト」に対して研究助成と技術協力を行っています。

マレーシアの中間層が居住する都市住宅は、熱容量の大きいレンガ造りのテラスハウスが大半を占め、冷房に消費されるエネルギー量が増大しています。本プロジェクトは、このようなテラスハウスを既存のまま改修し、低コストで省エネ化を図ることで人々の暮らしを豊かにすることを目標としています。2015年12月には、当社支援によりマレーシア工科大学の

キャンパス内に実証実験住宅(ニチアスECO-HOUSE)が新設されました。オープニングセレモニーには現地メディアも取材に訪れ、活発な質疑応答が行われました。実際のテラスハウスを模した省エネルギー改修実証実験により、本プロジェクトのさらなる進展が期待されます。



実証実験住宅「ニチアスECO-HOUSE」  
右側の棟に実験用の断熱材が施工されています

### ● 寄付・支援活動

当社は、日本赤十字社や各都道府県の共同募金会を経由した寄付・支援活動を行っています。2015年度は鬼怒川の堤防決壊に対する義捐金やネパール地震救援金などの寄付を行いました。今後もこのような活動を継続していきます。

## ニチアスグループ各拠点の地域貢献活動

### 各事業所での地域貢献活動への取り組み

事業所	取り組み内容
仙台支店(女川事務所)	春の全国交通安全運動に参加
結城工場	下妻市民清掃デーへの参加、各種寄付(花と1万人の会/下妻市花火大会/砂沼フレンドリーフェスティバル)
千葉支店	献血運動への参加、各種寄付(姉崎産業祭/市原市消防団五井支団/西青柳町会)
本社	中央区まちかどグリーンデーへの参加
東京支社	全国交通安全運動街頭活動への参加(以下参照)
若狭支店(原電致事務所)	地域美化活動への参加(西浦県道清掃奉仕/水島清掃奉仕)
若狭支店(美浜事務所)	地域美化活動への参加(三方五湖一斉清掃活動/県道白木線清掃活動/クリーンアップふくい大作戦美浜/グリーン・ザ・シーキャンペーン/はこべの家清掃活動)、地域餅つき大会への参加、地域マラソン大会の運営協力
若狭支店(高浜事務所)	地域美化活動への参加(関西電力高浜発電所県道清掃)
若狭支店(大飯事務所)	地域美化活動への参加(塩浜・袖ヶ浜清掃)
羽島工場	工場外周清掃、長良川への稚魚放流活動へ参加、羽島市花火大会への寄付
袋井工場	工場事務所棟を袋井市防災協力事業場として登録(以下参照)、袋井市防災対策事業への寄付、地域住民への説明会の開催、地元花火大会への寄付およびボランティア活動、工場外周清掃
名古屋支社	各種寄付(彦根市社会福祉協議会/大沢子ども会/大生学区区政連絡協議会/東又1・2公民会/名古屋商工会議所/鳴宮天満宮)
王寺工場	地域美化活動への参加(王寺町CCC活動/大和川一斉清掃/工場外周清掃)、地域交通安全指導への参加(王寺駅南安全連絡協議会/交通安全街頭指導/春・秋の交通安全県民運動)、王寺町広報活動への協力、献血活動の実施、地域餅つき大会の運営協力
郡山分工場	地域美化活動への参加(大和川一斉清掃/春のグリーンキャンペーン/秋のグリーンキャンペーン)、大和郡山市産業フェア「ものづくりフェスタ」への参加、昭和工業団地内ボーリング大会開催の企画・運営、献血活動の実施
北九州営業所	地域祭りへ寄付
大分営業所	営業所周辺清掃
大田化成	工場外周清掃、各種寄付(江ヶ崎八幡神社祭礼/矢向・江ヶ崎歴史資料室及び交流会を作る会)
日本ロックワール大阪支店	事務所花壇手入れによる美化活動を実施
堺ニチアス	工場外周清掃、地元夏祭りへの寄付
国分工業	地域美化活動への参加(大和川・石川クリーン作戦/工場周辺の「石川土手」清掃)、地元町内会秋祭りへ寄付
新日本熱学	とばた菖蒲まつり2015の清掃、姉崎産業祭(千葉県市原市)への募金
熊本ニチアス	周辺工業団地での交通安全活動(通学路の交通指導/通行実態調査)、工業団地周辺美化活動への参加

### 海外拠点での社会貢献活動

ニチアスグループは世界各国に多数の生産・販売拠点を展開しています。各国の地域や従業員との調和を図りながら、ともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

#### ベトナム ニチアスハイフォン社

- ・養護施設の方を対象とした運動会を実施
- ・周辺企業有志と合同でHIVキャリア児童施設へクリスマスギフトを寄贈



養護施設での運動会

#### タイ ニチアスタ일랜드社

- ・障がい者施設への寄付、衣類その他生活用品を寄贈
- ・従業員全員による工場外周の清掃



障がい者施設への寄付寄贈式

#### インド ニチアスインダストリアルプロダクツ社

- ・2015年12月に発生したチェンナイおよびカーンチプラムエリアでの大洪水による被災者への寄付
- ・世界環境デーへの参加として、苗木100本を工場敷地内に従業員全員で植樹



植樹活動

#### マレーシア ニチアスFGS社

- ・ケダ州Pulau Payar島自然保護区内の海岸清掃および植樹ボランティア活動



清掃、植樹活動

### ● 東京支社 全国交通安全運動街頭活動への参加

東京支社では春の全国交通安全運動へ参加しました。交通量の多い交差点に立ち、交差点で歩行者が安全に横断できるように、手旗で誘導するなどの街頭活動を行いました。期間中の活動内容が評価され、中央警察署長から感謝状を受領しました。



感謝状

### ● 袋井工場 新事務所棟を袋井市防災協力事業場として登録

2015年10月に竣工した新事務所棟は、合計300人が3日間過ごすことを想定した水や食料、毛布を備蓄しています。災害時には地域の避難所としても活用できるように、袋井市の防災協力事業場として登録しました。さらには、快適性と省エネ性に配慮し、製品のショールーム機能を備えています(詳しくはP26の環境TOPICSをご覧ください)。



防災機能とショールーム機能を両立させた新事務所

# 従業員とのつながり

ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワークライフバランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。



## 労働安全衛生

### ● 安全・衛生への取り組み

安全最優先の大原則のもと安全衛生基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組んでいます。具体的には、安全な製造設備への改善の取り組み、リスクアセスメントの推進、作業員への安全・衛生教育を実施しています。事故が起こってから取り組むのではなく、リスクを先取りして未然に対応すべく、継続的な活動を進めています。2015年度は、「仲間で築こう、災害リスクのない職場」のローガンのもと、「作業を指導または管理する監督者がキーマンとなり、安全衛生活動を推進する」を、製造・工事部門の共通重点実施事項として活動を行い、休業災害件数を2014年度10件から2015年度5件へ半減することができました。

COLUMN

### 災害を疑似体感し、危険を肌で理解する「安全道場」を開催

ニチアスグループ独自の安全衛生制度として、製造部門では「事業場安全衛生専任者」を設けて、事業場内の各職場が主体的で活発な安全衛生活動が行えるよう、管理・指導をしています。

その活動の一環として毎年すべての事業場の安全衛生専任者を集めた会議を実施しています。2015年度は王寺工場で開催しました。王寺工場では新設された安全道場にて全員で疑似災害を体感し危険を肌で感じ、理解するとともに「自職場では何が危ないか」を考え、横展開することができるかを話し合いました。



「安全道場」での災害の疑似体験

2015年度 ニチアス全国安全週間  
安全標語 金賞

「危ないよ!」返す言葉は、「ありがとう」仲間と築く無災害

## 働きがいのある職場づくり

### ● コミュニケーションの活性化を図るグループ報

グループ報「とんぼのわ」を年に4回発行しています。経営情報を従業員へ適切に伝えるとともに、海外までを含めた各拠点で活躍する従業員の声など、さまざまな情報を掲載し、経営層や従業員間のコミュニケーションの活性化を図っています。



グループ報「とんぼのわ」

## ダイバーシティへの取り組み

当社は安心して働くことのできる環境づくりを経営ビジョンに掲げており、女性・高齢者・障がい者などの働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

### ● 定年後再雇用制度

当社は2001年から、本人が希望すれば年金支給開始年齢（現在は65歳）まで再雇用される制度を導入しています。

### ● 女性従業員活躍推進の取り組み

女性が結婚・出産・育児などのライフイベントを迎えたときでも、キャリアを維持し安心して働くことができるよう、当社は2016年度から、「勤務地希望制度」および「離職者再雇用制度」を導入しています。また社内でもダイバーシティの意識が浸透し理解が深まるよう、管理職層への研修を実施しています。また、女性活躍推進法に基づき、当社では2020年3月31日までに「全従業員に占める女性従業員の比率を、現状の13%から15%にする」、「毎年の新卒採用者に占める女性の比率を20%以上にする」という目標を掲げています。

## ワークライフバランス

### ● 仕事と出産・育児の両立を支援

当社では、育児休業期間を1年6カ月まで、また、妊娠中の女性従業員についても本人の申し出で時差勤務などを認める「母性保護」を推進。従業員が安心して子育てに専念できる環境づくりに取り組んでいます。



VOICE

### 職場環境に感謝しております

研究開発本部 知的財産室 遠山 季里子

私は、2010年に第1子を出産し約1年3か月の育児休業を取得しました。保育園入園に合わせ長くお休みをいただきましたが、この時期に子どもとしっかり向き合えたことで、安心して仕事に復帰することができたのだと感じています。また、現在気持ち良く仕事と育児が両立できているのは、時短制度や時間有給の利用と、何より周りの方々の協力のおかげであると、心から感謝しております。

### ● 時間単位の年次有給休暇

年次有給休暇は以前から半日単位の取得が可能でしたが、2010年から年40時間まで時間単位の取得も可能にしました。短時間での私用がある場合など、従業員は同制度を有効に活用しています。

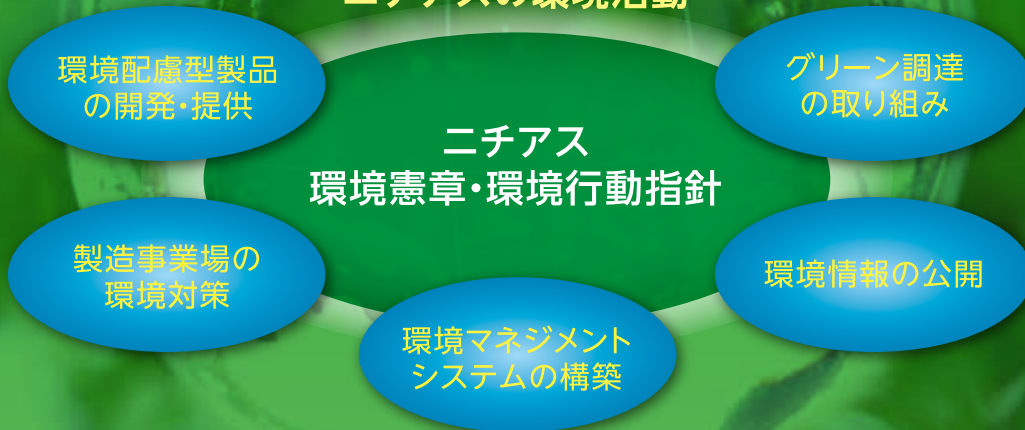


# 環境への取り組み

ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全などお客様の「環境」に関するニーズに応え、お客様の使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。

ニチアスグループは、つねに「環境」を意識して活動しています。

## ニチアスの環境活動



### 【ニチアス環境憲章】

ニチアスは、「断つ・保つ」の技術を活かし、地球温暖化をはじめとするさまざまな環境負荷を低減し、持続発展可能な社会の実現に貢献します。

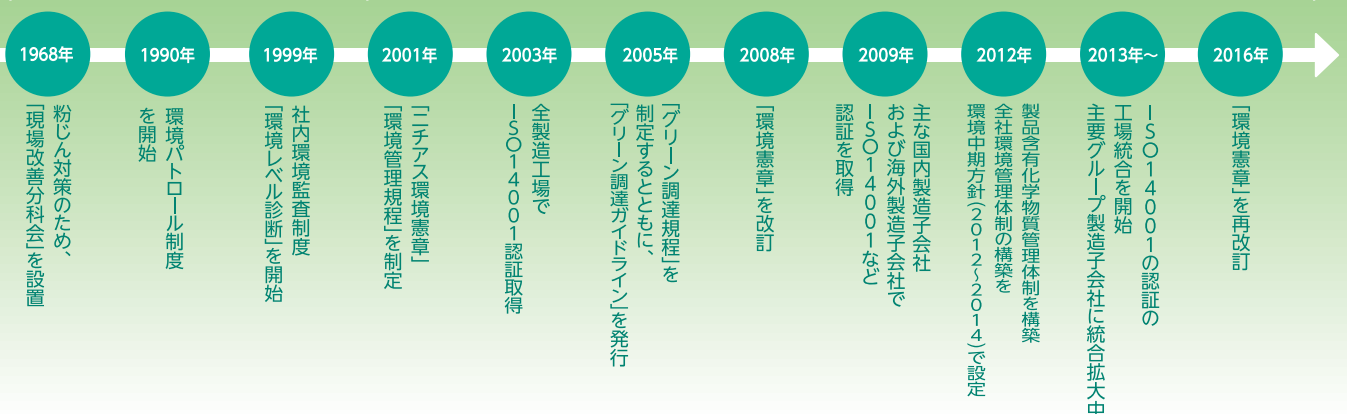
### 【環境行動指針】

ニチアス環境憲章に従い、継続的に活動し、改善を図っていきます。

1. 環境対応製品の開発／環境負荷低減に役立つ製品および工法を開発し、普及に努めます。
2. コンプライアンスの徹底／法令順守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たします。
3. 環境負荷の低減／省エネルギー・省資源・化学物質管理などの環境目標を立て、実行します。
4. 社会との共存／地域社会と共存するとともに、豊かな自然を大切にします。

## 環境活動の歩み

当社グループでは、早期から環境パトロールやレベル診断など、独自の方法で環境問題へ取り組み、管理・対策などを実施し、環境負荷を低減してきました。これからも幅広い分野に目を向け、持続可能な社会の構築に貢献し続けます。



# 環境マネジメント

さまざまな環境問題に積極的に取り組むとともに、

環境経営の実現をめざし全社環境マネジメントシステムの構築を推進しています。

## 環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針(2012年度～2014年度、2015年度へ1年延長)を策定しました。環境中期方針では「環境経営」「環境啓発」「コンプライアンス」「環境負荷削減」「環境コミュニケーション」の5分野で

課題を設定して活動してきました。

2016年度から環境経営をより効率的に推進するため、新たに5か年の新環境中期方針を策定し、進めていきます。

環境中期方針に基づく2015年の目標と実績

	環境中期目標	2015年度目標	2015年度実績	評価	新環境中期目標
環境経営	環境管理体制の構築 全社環境マネジメントシステムの構築	2013年度に確定した全社環境管理体制の維持推進	ISO14001技術本部・工場間統合 2015年10月継続審査受審済	●	1.環境経営の推進 国内製造拠点のISO14001取得率向上 2015年度末65%(13事業所)→2020年度末100%(20事業所) 2016年度末 2製造子会社を統合グループへ追加 2017年度 ISO14001を2015年版へ移行 2019年度末 3製造子会社を統合グループへ追加 2020年度末 2製造子会社を統合グループへ追加
		統合ISO14001の継続と統合範囲の拡大	(株)福島ニチアス、国分工業(株)を統合ISO14001へ追加	●	
環境啓発	従業員の環境意識向上 全従業員への定期環境教育の推進と維持	全従業員への定期環境教育の推進と維持の継続	全従業員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行	●	2.社従業員への環境啓発活動の推進 全従業員への環境教育の実施 環境委員会 工場・製品・管理部会の充実
		eラーニングによる全社教育の実施継続	部門別環境教育の実施 環境担当者別教育の実施	●	
		社内環境情報通信の発行継続	2015年度から安全衛生環境通信を発行、継続	●	
コンプライアンス	事業場のコンプライアンス 全事業場における環境法規の順守の徹底	全事業場における環境法規の順守の徹底	人事異動、契約時などの変化点で法順守を維持できる仕組み化 毒劇物に該当する製品教育を本社/支店/営業所へ実施	●	3.コンプライアンスの徹底 製造事業場 ・環境負荷や法的不備が変化点でわかる仕組みの構築 ・PCB含有機器の適切な処理の推進
		製品環境法規の順守徹底	毒劇物取締法、消防法に関連する製品の取り扱いから販売まで適正な手順を整備	●	
		顧客グリーン調達への対応体制構築	原材料についてのグリーン調達を継続実施	●	
環境負荷低減	産業廃棄物削減 産業廃棄物排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比5%削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2015年度末に2011年度比5%削減	産業廃棄物排出量生産高原単位 2011年度比2%削減	×	4.環境負荷低減 省資源目標 産業廃棄物排出量生産高原単位を2018年度末に2015年度比5%削減 省エネ目標 原油換算エネルギー原単位を2020年度末に2015年度比必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減(COP21目標に準拠)
		CO <sub>2</sub> 削減 省エネルギー CO <sub>2</sub> 排出量生産高原単位を2014年度末に2011年度比3%削減	CO <sub>2</sub> 排出量生産高原単位を2012年度比3%削減	製造事業場のCO <sub>2</sub> 排出量生産高原単位を2012年度比13%削減(2011年度比1%削減)	
環境コミュニケーション	情報公開 情報公開の維持・推進	CSRレポートの発行継続	2015年CSRレポートを発行	●	5.環境コミュニケーションの推進 事業場の美観整備 苦情の撲滅
		地域と製造事業場の共生 再発苦情の撲滅	再発苦情撲滅のための方策づくり 再発苦情 ゼロ	会議体で再発防止策の有効性確認を継続実施 環境苦情 4件発生も再発ゼロ	

## 環境管理推進体制

環境経営への転換を目的として2011年度から全社環境管理推進体制の整備を進めています。環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置し、同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としています。2015年度は「全社環境マネジメントシステムの構築」をさらに進めて「ISO14001工場統合認証」を一部拡大(2製造子会社を認証追加)しました。それ以外の製造子会社でも環境マネジメントシステムを取得継続し、環境管理を推進しています。

環境管理推進体制図



ISO14001などマネジメントシステムの認証取得状況  
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/>

## 環境監査体制

製造事業場では①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2015年度もISO14001工場統合認証継続活動のなかで事業場間相互内部監査を実施しています。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音の一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

## 環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額注1は219百万円(前年度比47百万円増)でグループ全体の設備投資額の5.1%にあたります。環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト注2は459百万円(2014年度比27百万円減)でした。これらのコストは、大気汚染、水質汚濁、悪臭などの公害防止、産業廃棄物処理、環境負荷監視などにともなうものでした。

注1: 当社グループ全体を集計対象  
注2: 当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2015年度) (単位:百万円)

分類	金額
事業エリア内コスト	71
公害防止コスト	110
地球環境保全コスト	27
資源循環コスト	11
管理活動コスト	219
合計	

環境保全コスト(当社製造工場/2015年度) (単位:百万円)

分類	金額
事業エリア内コスト	231
公害防止コスト	2
地球環境保全コスト	165
資源循環コスト	61
管理活動コスト	459
合計	

## 環境教育・啓発

### ● 環境教育活動

当社では全従業員を対象とした職種別eラーニングで環境教育を2013年から毎年実施しています。そこで製品のライフサイクルにおける環境影響や化学物質規制、環境法規の動向などの内容を盛り込んでいます。また、内容を管理部門、工場、研究所、事業本部向けとアレンジし、従業員それぞれがどんな環境活動・行動をすべきかをわかりやすく説明しています。

## 環境リスクマネジメント

### ● 製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを継続しています。2012年度から引き続き「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行していたSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みができあがりました。2016年6月1日から労働安全衛生法のラベル表示物質が104から640に拡大されていますが、当社製品ラベルは本仕組みにより的確に対応しています。

### ● 環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。これは従業員が事業場の周囲をパトロールし、「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認する活動です。新鮮な目でパトロールができるようメンバーを定期的に入れ替え、2015年度はグループ全体で延べ104回パトロールを実施し、227件の不具合を摘出し、環境リスクを低減することができました。

### ● 外部からの指摘

2015年度は、製造事業場から発生する臭気や騒音についてグループ全体で4件の指摘を受けました(再発環境苦情は0件)。2016年度は指摘への調査・改善を行うとともに、過去に受けた指摘の改善を継続的に実施し、発生防止対策、改善を進めております。また、指摘内容の対応経過や改善策は関係自治体へも報告・連絡しています。

### ● 環境啓発活動

2015年度も情報新聞「安全衛生環境通信」(月刊)の刊行を継続し、社内外の安全衛生環境情報を全従業員に発信してきました。また、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高めるため、地域へ協力する清掃活動を展開しています。



# 環境パフォーマンス

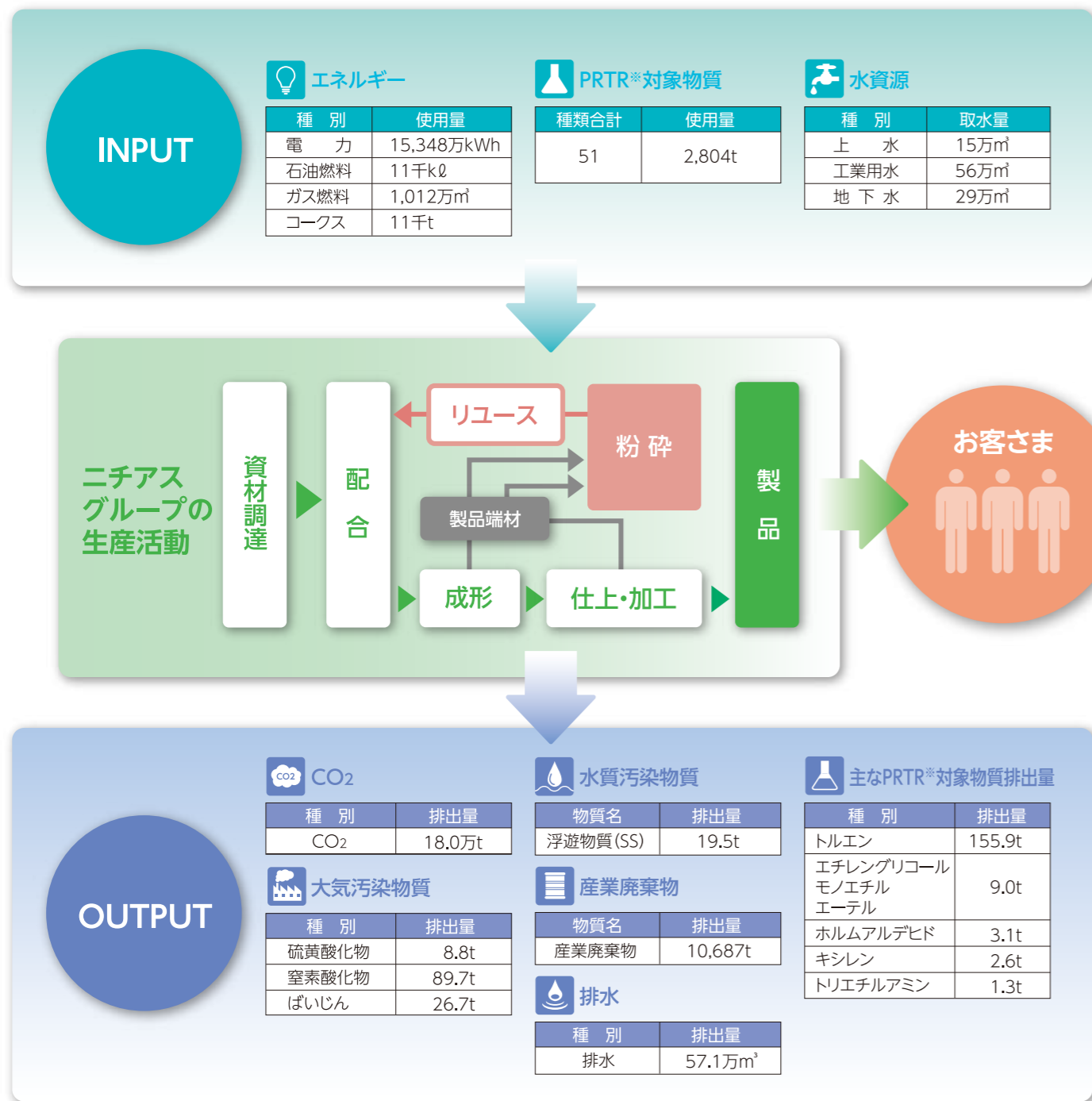
持続可能な社会の構築に向けて

環境負荷物質削減への取り組みを強化しています。

## ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO<sub>2</sub>量や産業廃棄物量などを把握するとともにそれらの削減に向けた具体的

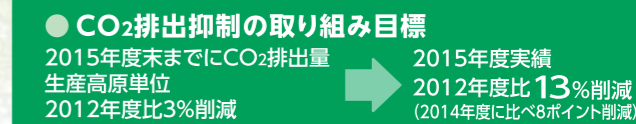
な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の削減に取り組んでいます。



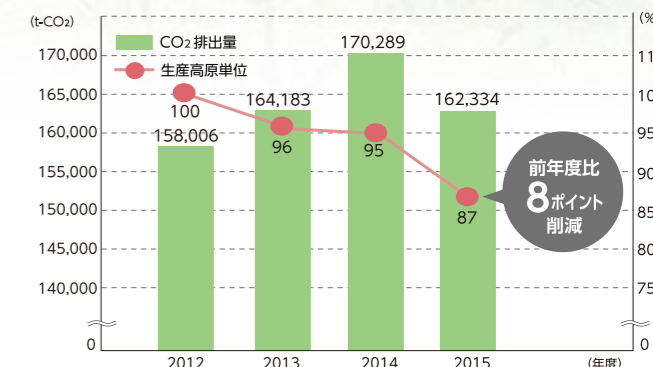
\*特定化学物質の環境への排出量の把握等及管理の改善の促進に関する法律

## CO<sub>2</sub>排出実績

当社グループは2015年度末にCO<sub>2</sub>排出量生産高原単位3%削減(2012年度比)を目標に活動してきました。2015年度は活発な生産活動での生産量増加のなかでも、全体でエネルギー使用量を抑えることができ、CO<sub>2</sub>排出量は前年度比7,955トン減少、CO<sub>2</sub>排出量生産高原単位で比較すると前年度比では8ポイント削減、2012年度比13%削減と目標を達成することができました。各拠点では改善活動や省エネ活動に積極的に取り組んでおり、改善活動による電力の削減や、設備投資では省エネ機器の積極的採用、燃料の切り替えによるCO<sub>2</sub>発生抑制などを進めています。また、主要製造事業場から担当者を集め、定期的に省エネ分科会を開催し、各拠点の省エネ事例を共有し、水平展開できる仕組みを構築しています。2016年度からの新環境中期計画では2020年度末までの5年間で2015年度比CO<sub>2</sub>排出量生産高原単位5%削減を必達目標とし、さらに努力目標を加えた7.5%の削減活動を進めます。



CO<sub>2</sub>排出量および生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)



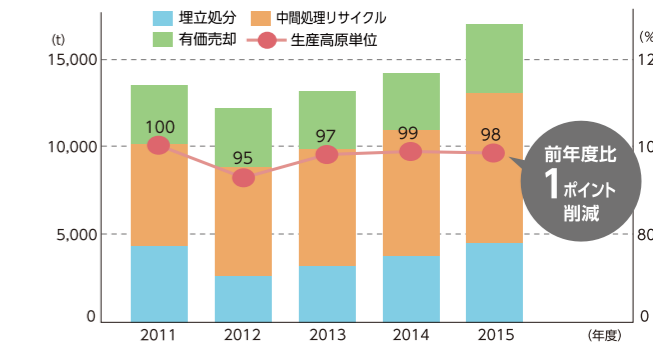
## 不要物・産業廃棄物排出実績

2015年度は前年度に比べ、生産量が増加したため、事業活動における不要物<sup>注1</sup>の排出量は総量15,580トンで前年度比701トンの増加、産業廃棄物の排出量は10,687トンで前年度比142トンの増加となりました。排出量生産高原単位では前年度比1ポイントの削減、基準年の2011年度比でも2%削減にとどまり、目標を達成することはできませんでした。この主な要因は環境対策と品質安定のため、汚泥排出量が増えたことによるものです。各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通じて、確実に不要物、産業廃棄物を減量させていく取り組みを引き続き継続していきます。なお、当社グループより排出される不要物から71%のものが再資源<sup>注2</sup>として利用されています。

注1: グループから排出される有価売却物を含む廃棄物  
注2: 最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義



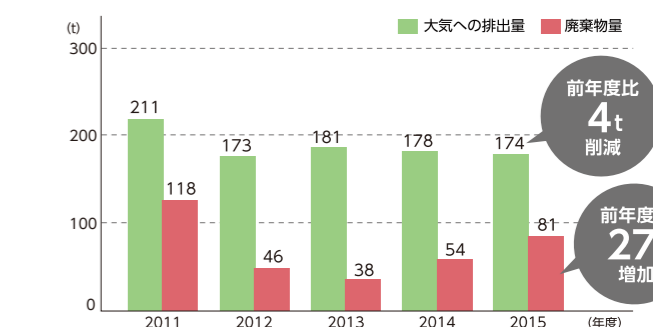
不要物排出量および産業廃棄物生産高原単位の推移(当社グループ製造事業場)



## PRTR対象物質排出実績

事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は2,804トンで、前年度から81.8トンの増加となりました。主要工場、子会社の生産量が増加し、PRTR対象物質の使用量は、排出された廃棄物に含まれる溶剤分が増加しています。しかし大気への排出量は2014年度の178トンから4トン削減しており、大気排出抑制の改善が効果として出ています。各生産拠点では少しでも環境影響を減らすべく化学物質の取り扱い量削減、洗浄剤や塗料の転換による削減などの改善に取り組んでいます。

PRTR対象物質排出量・廃棄物量の推移(当社グループ製造事業場)



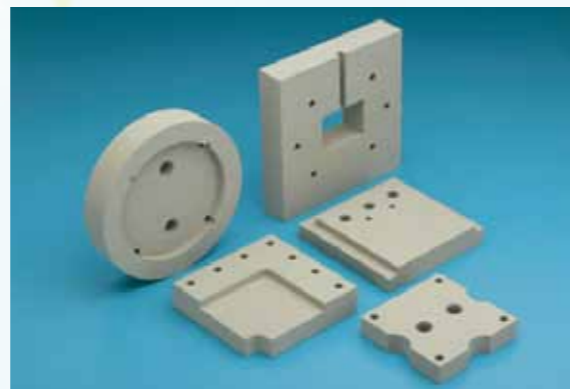
# 技術と人の力で環境保全

～美しい地球環境・地域社会を未来に残すために～

## 地球温暖化防止をめざして「ロスリム®ボードGH」を開発

### ● 高強度低熱伝導率断熱材 『ロスリム®ボードGH』

「ロスリム®ボード」は各種工業炉をはじめ、さまざまな産業でコンパクト化を要求される断熱部に幅広く使用される高強度低熱伝導率断熱材で、省エネルギー・地球温暖化防止に貢献できる製品です。空気の分子が動き回れないほどの小さな隙間を有していれば、空気による伝熱を抑制することができ、画期的な性能の断熱材ができると1970年代には理論付けられていました。理論に基づき製品化されたこれまでの断熱材は、もろく、くずれやすいため加工やハンドリングに難がありました。そこで、特殊な製法で粒子間の接合強度を高め、誰でも容易に取り扱うことのできる強度と高い加工性を実現した「ロスリム®ボードGH」を開発。これにより、複雑な加工が多い工業炉など従来では使用できなかった場面でも使われ、数多くの工業炉などで省エネルギーに貢献しています。



#### ロスリム®ボードGHの特徴

- 従来の断熱材より熱を伝えにくい
- 従来の断熱材より硬くて丈夫
- 簡単に加工できる

断熱性能※  
**UP**

※データの詳細については、当社Webサイトの技術時報をご参照ください。  
http://www.nichias.co.jp/research/technique/pdf/373/03.pdf

### ● 平成27年度省エネ大賞で『省エネルギーセンター会長賞』を受賞!!

(一財)省エネルギーセンターが経済産業省の後援を受けて主催する省エネ大賞は、省エネルギー意識、活動および取り組みの浸透、省エネルギー製品などの普及促進に寄与することを目的としています。審査には、書類審査・東日本地区発表大会・製造工場での最終審査があり、最終審査では製品製造工程確認を含めた現場審査がありました。その結果、「ロスリム®ボードGH」は国内工業炉の71%に適用可能で、工業炉の省エネ化を推進できる点、また燃料電池用などの用途でも今後の拡大が期待される点が評価され、製品・ビジネスモデル部門において省エネ大賞『省エネルギーセンター会長賞』を受賞しました!



省エネ大賞表彰式の様子

## VOICE

### ロスリム®ボードGH開発者より

**伊藤**: 本大賞の受賞を励みにして、今後ますます進む省エネ社会のニーズに合った高性能断熱材の製品開発および拡販に努めてまいります。

**太田**: ロスリム®ボードGHという素晴らしい製品が世に認められ、大変うれしく思います。当社にはほかにも素晴らしい製品がたくさんありますので、今後もさまざまな場でPRしていきたいです。



工業製品事業本部 省エネ製品 技術開発部 省エネ技術開発課  
伊藤 泰男(左)、太田 雄喜(右)

## 環境への貢献をめざして

### ● 袋井工場の省エネ対策 ——新事務所の省エネ事例——

2015年10月、袋井工場の新事務所が完成しました。新事務所のコンセプトは、「ゼロエネルギービル(ZEB)」。

ZEBとは、省エネや再生可能エネルギー利用などにより、建物内のトータルのエネルギーの年間使用量をほぼゼロにしようというものです。ZEBをめざして、屋上には84.8kWの太陽光発電パネルを設置。一方、建屋には自社製品である住宅用断熱材ホームマットを壁に入れ、年間を通じて熱負荷量を軽減しています。さらに、LED照明器具、採光ブラインド、高性能複層ガラス、熱交換換気や高効率空調などさまざまな省エネ器具を採用しました。



袋井工場の新事務所

2015年10月～2016年3月の太陽光発電の月間平均発電量は6,650kWhと事務所消費電力の約90%をまかなうことができました。年間を通せば、ZEBを達成できると期待しています。

このように新事務所は断熱と省エネルギーが見えるモデル事務所として活躍しています。

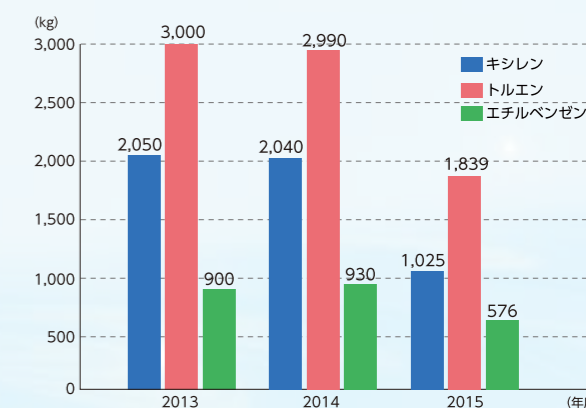
太陽光発電パネル

### ● 国分工業の化学物質対策 ——PRTR対象物質の削減対策——

国分工業(株)では、断熱材をはじめ、自動車部品、フィルター製品、産業用摩擦材などを製造しています。その工程で、有機溶剤を含む塗料や洗浄剤を使用してきました。有機溶剤による健康影響が話題にされるなか、作業員へのばく露防止は当然していましたが、国分工業では「そもそも使用しなければよい」をコンセプトに有機溶剤系材料の代替化、使用量削減に力を入れてきました。

一例として、産業用の摩擦材製造の脱脂工程で使用していたPRTR対象物質の一つであるジクロロメタンを、環境負荷の少ない物質に代替することで全廃することができました。また2014年度からは、従来使用していた有機系の塗料を水性の塗料に代替することにより、PRTR対象物質のキシレン、トルエンおよびエチルベンゼンの使用量の削減を進めており、2015年度では前年度比40%以上の削減ができました。

#### PRTR対象物質使用量の推移



## VOICE

### 化学物質管理の担当者より

PRTR届出物質は、環境負荷が大きい化学物質です。それを使用している国分工業では、作業員の健康管理を最優先として、作業環境の改善に取り組んでおります。原材料や副資材を代替化することなどにより、作業員への負担をなくし、併せて環境負荷も低減しています。



国分工業(株)安全環境管理室 室長 大西 信男

# ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号  
TEL 03-4413-1194 (経営企画部 広報課)  
<http://www.nichias.co.jp>



## 表紙の写真

ニチアスは古くから日本を指すトンボをトレードマークとして使用してきました。CSRレポートでは、トンボをテーマにした写真を当社グループの従業員から公募し、掲載しています。2016年の応募者数は48人でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事優秀賞に輝いた作品です。

## 撮影者のコメント

ニチアスブルーの秋空、牡丹の枝に止まるトンボの羽が実に美しく、庭仕事を忘れて思わずカメラを向けました。写真は仕事で工場などたくさん撮りますがトンボは初めて。コンテスト応募も生まれて初めてです。そんな私の拙い写真が表紙に選ばれたとは、まさにピギナーズラックでしょうか！これを機会に「初めて」をいろいろな挑戦してみたいと思います。  
技術本部 技術部 高橋 浩

この印刷物  
1冊あたり  
CO<sub>2</sub> 310.1g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、カーボンフリーコンサルティングを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト（自然エネルギー事業）によって削減された CO<sub>2</sub> 排出権を購入することで、印刷物制作において排出された CO<sub>2</sub> を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現象液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉱物油を使用せずに VOC (揮発性有機化合物) を含まない 100% 植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



京都議定書の目標である「温室効果ガス 6% 削減」のためには、国内森林で「3.9% 吸収」の実現が必要です。国産材を積極的に使うことは CO<sub>2</sub> を吸収する森の育成に貢献できます。この冊子の制作には、国産材が製紙原料として活用されています。



LC-CO<sub>2</sub> に関しては、左記 QR コードからご覧いただけます。

この印刷物に記載されている情報の全部または一部について、当社に無断で複写、複製、模倣、流用、転載すること、および磁気媒体または光記録媒体に入力することは固くお断りします。